

大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業 豊橋技術科学大学(タイプI) 取組概要

1. プログラムの概要

【1.名称】

グローバルテック・イノベーターを育む 多文化共修キャンパスの創出

【2.取組の概要】

本事業では、本学の強みを生かした3つの柱『技術を科学する共修キャンパス』、『世界とつながる共修キャンパス』、『学びが視える共修キャンパス』による多文化共修キャンパスを創出することで、我が国の伝統的なものづくり技術とグローバル時代の最先端技術を融合し、欧米の模倣ではなく日本独自の強みを基盤とする**グローバルイノベーションを生み出すために必要な力を有する『グローバルテック・イノベーター』を育成し、10年後・20年後の我が国のものづくりに貢献する。**

本事業による3つの柱の創出を通して、**地域における「グローバル・ハブ」として、本学と地方自治体や産業界が双方向的に連携する仕組みを構築**することで、留学生と地域の相互理解を促進し、グローバルマインドを地域とともに醸成し、成果を「**多文化共生のまちづくりのモデルケース＝豊橋モデル**」として他大学等の好事例として横展開し、波及・普及させることを目指している。

【3.育成する人材像】

上述したグローバルイノベーションを生み出すために必要な3つの力、**①技術科学創出力：問題の本質を探り当て、社会を変革する技術をデザインする力、②グローバル共創力：多様な価値観・知識・経験を持ったメンバーとチームを構成し、共に学びながら共創する力、③インクルーシブなリーダーシップ力：チームメンバーの文化や個性の違いを超えて共感を醸成し、チーム全体を牽引する力、**を有するグローバルテック・イノベーターを育成する。

【4.主な取組】

①特色ある多文化共修科目について

A. 産学共修ものづくり研究（産学共修科目群・必修）

【概要】学部第2年次・全学対象・英日バイリンガル・英語

地域行政や産業界から提示された多様な課題に対し、学生がチームを編成し、協働してその解決に取り組む。博士後期課程学生が企業と連携して指導にあたり、学年や専門分野の枠を越えて構成された学生チームが共に同一の共修プログラムに参加することで、キャンパス内の多様性を活かし、プロジェクト活動を通じて異なる背景や経験を持つ学生同士の知識や視点が相互に伝播・共有される共修の場とする。

B. 哲学対話論（リベラルアーツ共修科目群・選択必修）

【概要】学部3年次・全学対象・英日バイリンガル（市民公開回は日本語）

哲学対話についての知識を身につけ、それをデザインし実践する。また、哲学対話そのものについての検討（メタ哲学対話）を実施する。簡単には答えの出ない問いに協働して取り組む力と、異なる立場の他者と対話し共通理解を築く力を養い、「対話する技術者」としての基礎を育む。

C. グローバル・リーダーズ演習（グローバル共修科目群・選択必修）

【概要】博士前期課程・全学対象・英日バイリンガル

グローバルリーダー養成の教育プログラムとして学生がチームを編成し、企画立案・実施までを行う実践的な学生主体のアクティブ・ラーニングを地域と連携して実施する。



②日本人学生の送出しの取組

日本人学生の海外派遣を促進するため、多文化共修科目群を新たに導入し、学内での異文化理解と語学力向上を図る。これにより、学部段階から海外に関心を持つ学生を育成し、実践的な海外体験へとつなげる。また、海外大学等と連携した国際連携授業や産学連携による国際研修・実務訓練及びダブルディグリー等のプログラムを充実させ、キャンパスでの学びを海外に拡張するモビリティプログラムを強化する。加えて、マイクロクレデンシャル／デジタルバッジにより学びを可視化し、学生の具体的な行動への動機付けを行う。こうした取組を通じて、**本学の教育を「世界とつながる」学びへと発展させ、日本人学生が海外で主体的に学び、グローバル社会で活躍できる人材育成**を行う。

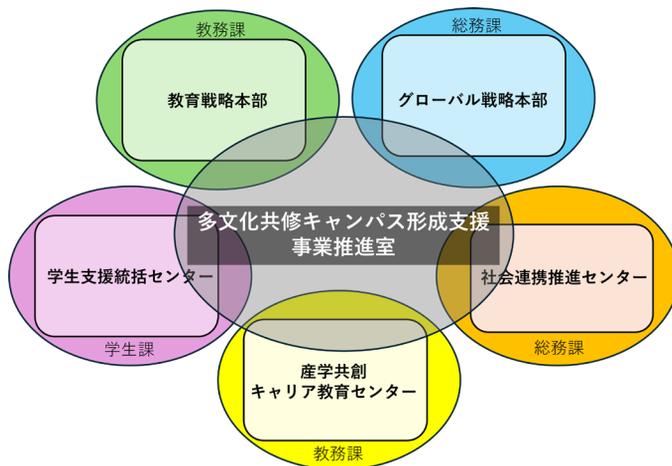
③外国人留学生の受入れ・定着のための取組

英日バイリンガル授業を始めダブルディグリー・プログラムを含む英語で学位取得可能なプログラムを充実させ、留学生の獲得に努める。国費優先配置プログラムの活用に加え、政府派遣等を含む私費留学希望者にも海外協定校への効果的な広報を行い優秀な学生の獲得につなげる。また、日本人学生と留学生が共住するTUTグローバルハウスでの交流や地域と連携した課外活動等の促進・活性化を通じて、**多文化共修を日常化**させる。さらに、**日本語教育や産業界との連携によるインターンシップ等を行う「留学生就職促進教育プログラム」を展開し、留学生の国内就職を目指したキャリア教育を充実**させる。これらの取組により、留学生が多様な経験を積みながら広く社会に貢献できる体制を整備し、本学が地域と世界をつなぐグローバル・ハブとして機能することを目指す。

④国際化のための体制整備・特徴

大学全体で本事業を推進するため、2024年度、学長始め執行部役員で構成される戦略企画会議の下に「**多文化共修キャンパス形成支援事業推進室**」を設置し、既存の大学組織と連携・協働しながら事業を展開している。

多文化共修キャンパス形成支援事業推進室には教員のみならず職員も推進室員として参画し、学科や課を横断する教職協働体制を構築している。また、全学的に英日バイリンガル授業や産学共修、教育型学生宿舎グローバルハウスの運営等、様々な多文化共修の取組を通じ、さらなる地域課題解決とイノベーション創出に寄与する「豊橋モデル」の構築を目指している。



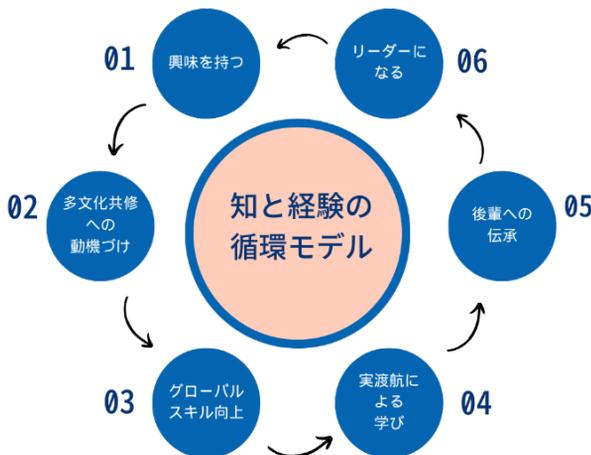
多文化共修キャンパス形成支援事業推進室の位置づけ

⑤国内地域との連携について(タイプⅠ:地域等連携型のみ)

本学が所在する豊橋市は、外国籍住民が人口の約5%を占める全国有数の多文化共生都市である。これまで本学は、豊橋市をはじめ多くの東三河地域の関係団体と連携し、国際交流に関する定期的な意見交換や連携イベントを実施してきた。本事業では、**さらに地域の課題と向き合い共に学び合う機会を創出することで、学生の学びを地域に循環させ、留学生の地域定着や多文化共生意識の醸成にも寄与**することを目指す。

⑥その他の特徴

本学では、留学生比率が約15%、出身国は35カ国と多様であり恵まれた多文化共修環境となっているが、日本人学生のこうした環境の活用は不十分であるため、学生の課外活動グループや学内外で活動している団体の事業情報を集約し、互いに共有できる場を本学図書館内のグローバルラウンジに設置する。**留学生、日本人学生が日常的に交流できる共修環境整備の充実によりいっそう取組むことで、多様な背景をもつ学生がつながり、知と経験の循環が日常的に生まれるキャンパスを形成**していく。



専門・学年を超えた多文化共修による知と経験の循環モデル

知と経験の循環

インクルーシブなリーダーシップ力を育成する基盤的で重要な共修環境の効果の一つ

【5.多文化共修科目数・参加学生数の設定目標】

科目数等	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
正課科目数	883科目	700科目	700科目
うち、多文化共修科目数(学士、博士前期、博士後期) ①	338科目	287科目	315科目
【①の内訳】			
・学士課程	190科目	161科目	177科目
・博士前期課程	105科目	89科目	98科目
・博士後期課程	43科目	37科目	40科目

参加学生数	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
①の参加学生数(A : B + C)	8732人	8994人	9343人
うち、日本人学生数(B)	7343人	7563人	7857人
うち、外国人学生数(C)	1389人	1431人	1486人
【Aの内訳】			
・学士課程	6397人	6589人	6845人
・博士前期課程	2242人	2309人	2399人
・博士後期課程	93人	96人	99人

学生総数	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
学生総数(D : E + F)	2085人	2162人	2232人
日本人学生数(E)	1773人	1792人	1792人
外国人学生数(F)	312人	370人	440人

割合 (多文化共修科目に参加する学生割合)	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
参加学生数(A) / 学生総数(D)	418.8%	416%	418.6%
うち、日本人参加学生数(B) / 日本人学生数(E)	414.2%	422%	438.4%
うち、外国人参加学生数(C) / 外国人学生数(F)	445.2%	386.8%	337.7%

●計画内容(事業期間全体のもの)

令和8年度に「リベラルアーツ共修科目群」、「産学共修科目群」、「グローバル共修科目群」の3つの科目群を設け、多様な共修による学年や分野を横断した教育体系を再構築する。今後の計画として、学生の実質的な学びの時間をより確保するため、現状の総科目数を2割程度削減することを検討している。これにより、令和8年度に287科目(41%)、令和11年度に315科目(45%)と着実に多文化共修科目数割合を増やす計画としている。

大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業 豊橋技術科学大学(タイプI) 取組概要

2. 取組内容の進捗状況(令和6(2024)年度)

【1.大学の国際化に向けた取組の進捗状況】

2024年度においては、「技術を科学する共修キャンパス」「世界とつながる共修キャンパス」「学びが視える共修キャンパス」の3本柱のもとに地域と連携した多文化共修活動の基盤を構築した。

柱① 技術を科学する共修キャンパス

学内に推進体制を構築し、豊橋市など関係機関と会議体の設置に向けた調整を進めた。教育面では、英日バイリンガル授業をはじめ海外大学との連携によるオンラインでの国際連携授業、海外実務訓練、国際連携教育プログラム、市民参加型科目等を実施した。

柱② 世界とつながる共修キャンパス

国際的なネットワークを活用した活動として、優れた留学生獲得戦略の立案に加え、海外実務訓練先機関との関係維持・拡充および今後の海外大学との連携強化に資する情報収集を進め、次年度以降の具体的な実施計画を策定した。

柱③ 学びが視える共修キャンパス

学内に専門部会を設置し、先進事例の調査およびデジタルバッジを活用した学修履歴の可視化について検討し、専門・学年を超えた多文化共修による知と経験の循環モデルの仕組みづくりの具体化を検討した。

【2.多文化共修に係る取組の進捗状況】

「海外実務訓練」(正課)

マレーシア・ペナンを始めとする海外企業への実務訓練を行った。参加学生に対しては、より充実した留学が行えるように、一部の渡航先について、現地の文化や言語に関する留学生との共修を含んだ渡航前研修を行った。その結果、2026年度の目標値を上回る56人が受講した。

「生活・学習プログラム」(正課外)

既設のプログラム学生以外にも対象を拡大し、学生主体のTEAM活動を実施することにより、多文化共修の実践と学生同士の学び合いを推進した。さらに多文化共修に係る教育補助業務を行うことで、学生の学修成果の共有による教育の質向上につなげた。

その他、学内共修環境整備の状況

- ・教育用端末室をアクティブラーニング対応教室へ改修し、グループワークが実施しやすい学修空間を構築した。
- ・講義棟および情報メディア基盤センターの教室をハイフレックス化し、海外大学との連携授業や遠隔授業に対応可能な教育環境を整備した。
- ・附属図書館の一部にグローバルラウンジを新設し、多文化共修・共生の視点を取り入れた交流空間を整備した。

【3.成果指標】

多文化共修科目として、日本人学生と留学生が参加するアクティブラーニングの実績値として、2024年度は留学生数が減少したこともあり、数値としては少なくなったが、英日バイリンガル授業をはじめ海外大学との連携によるオンラインでの国際連携授業、海外実務訓練、ダブルディグリー・プログラム等の国際連携教育プログラムを継続・拡大させて実施した。今後、全学的に3つの科目群を整備し、学内全体での多文化共修を推進していく計画である。

【2024年度実績値】

多文化共修科目数

305科目

参加学生数

8,410人

【4.自由記述欄】

市民参加型科目として「哲学対話」を実施

本学の学部1年次の学生に対して実施した「リベラルアーツ入門」(哲学対話)の授業では、東三河在住の市民も参加し、学生と市民が混ざり合い、2つのグループに分かれて、1つの問いについて哲学対話を行った。それぞれの問いは、「優しさの本質とは何か?」と「個々人の持つ多面性の本質とは何か」である。学生のみで行った対話と比較すると、参加者の立場、年齢、価値観が多様になるため、合意形成はより難しくなった。しかし、学生は、普段なかなか話すことのない市民との対話に、興味を持って取り組んでいた。このように、「技術者のための哲学対話」において、技術者以外の人や、全く異なる興味関心を持つ人たちと共修することにより、より効果的な学修を行うことができた。



市民参加型科目の実施の様子